

平成 26 年度 第 1 回 学校協議会記録

I 日時 平成 26 年 6 月 6 日 (金) 15:30～17:00

II 場所 守口支援学校 図書室

III 参加者

①学校協議委員

守口市教育センター長；廣部孝徳様

佛教大学；青山芳文様

社会福祉法人 一粒のからし種 理事長；福田章男様

ハローワーク門真 総括職業指導官；中尾紀子様

学校医；森久子口様

本校 PTA 会長；桑原礼子様

②本校事務局

白木原校長 石原教頭(司会) 佐野教頭 小学部主事室田

(記録)、高等部主事木村(記録)、首席古賀、指導養護教諭篠矢、

各分掌部長 医療的ケア安全委員長

IV 内容

1 校長挨拶

学校協議会構成メンバーは 新たにお問い合わせした廣部様、青山様 2 名を加え計 6 名で構成されている。地域住民の協力をいただき、改正の趣旨をとらえ学校経営、運営に力をお貸しくさせていただきますようよろしくお願いいたします。大阪の情勢・本校の課題。

2 学校協議会委員自己紹介、事務局紹介

3 協議会会長選出、会長挨拶 (守口市教育センター長；廣部孝徳様)

4 今年度の学校経営計画について

「めざす学校像」は昨年度と変わっていないが、「中間目標」で改定したところを中心に伝える。

5 今年度の使用教科書について

各学部、グループごとの教科書を提示し説明を実施

6 授業アンケートについて

今年度の変更点と進行状況の説明

7 第 2 回 学校協議会日程について

平成 26 年 11 月 18 日 (火) ～21 日(金)予定

8 その他

V 質疑応答・提言

(協議員) 生徒数の減少、複雑化、特化した取り組みをしている。学校に期待している。

(協議員) 福祉と教育の物理的、人的格差があるように思います。格差が縮まる取り組みがすすんでくればあればありがたい。

門真在住の生徒は高等部から寝屋川支援学校へ行く、門真市の状況等ノウハウはうまく伝達されているのでしょうか。

(事務局) 守口・寝屋川 2 校で連携して取り組んでいる。交野支援とも連携できている。

(協議員) 守口では高等部、全体の児童生徒数減少で、余裕が出てきている用に思える。近所に登校に 1 時間かけて聾学校に通っている児童がいる。地域で就学できる方向性は進んでいるのでしょうか？

(事務局) 大阪は障がい特性で学校を分けており、総合型の支援学校はない。(他府県には総合支援学校という形をとっている学校もある)。中 1 の生徒で聴覚支援学校から、本校に来ているケースもあり、聴覚障害があるからといって、聴覚支援学校に行っているわけではなく、ケースのよっては地域の学校で学んでいる生徒も多い。

(協議員) 少子化に伴い、障害種別を越えて集約できれば効果があがるのではないか

(事務局) 肢体不自由校はスロープ、聴覚支援学校は電波で音を飛ばすシステムが設置されている、総合型の支援学校はすべての環境を整える必要がある。

(協議員) 視覚、聴覚障害なら整備すれば地域にいけるが、児童生徒の発達段階が大切なように思う。発達の遅れがない子は地域に行くが(支援学校が少ない)、教育の蓄積と集団が中途半端になる。

(協議員) 本日、守口支援学校を見学した印象は子どもが落ち着いていて授業に参加している。理由として、地域の影響、子どもたちの特性があるのか？押しなべて全体として子どもたちが落ち着いて授業に向かっている。授業作りが機械的でなくうまくすすんでいる。京都は教員がいっぱい配置されている(大阪の 2 割り増し?) が、児童・生徒にただ寄り添っているだけではうまくいっていないところもある。構造化に熱心に取り組んでいても機械的になっていて、うまく指導につながっていない場合があるように思う。どんな指導が何故うまくいっているのか興味がある。